

STYLING

MONO

山形県天童市に本社を置く天童木工は早くから社外のデザイナーを登用したモノ作りを行っていた。職人の経験値と美的感覚だけでは頼らない外部デザインという厳しい視点をあえて自分たちのモノ作りに課すことでデザイン史に残る名品を数々生み出した。



戦国武将が座っていた床几や縁台などの文化が古くからの日本にあったとはいえず、現代のわれわれが使う洋風の椅子が、生活の中に見られるようになったのは明治維新以降。特に室内に板張りの洋間が作られるようになってそれは顕著になってきた。日本における椅子の歴史はまだまだ浅いのである。しかし、日本でデザインされた椅子はいまや世界中のインテリア関係者やデザイナーたちから常にその動向が注目され続けている存在だ。特に戦後の日本人が資質として持っていた真面目なモノ作りと職人性、そしてデザインへの冒険心を失わなかった人たちによって日本のデザイン力は切磋琢磨されてきたのである。その代表的な存在が、柳宗理デザインの「バタフライスツール」である。1956年に天童木工が製作したこの椅子は当時としては最新技術であった木材の圧着成形で作られた、成形合板の椅子であった。ループル美術館やニューヨークの近代美術館にも收藏されているこの、世界の名作椅子についていまその価値を再評価する人は少なくない。

VOL.19 Butterfly Stool Since1956~

●特集[天童木工バタフライスツール]

Photo/Tomoaki Tsuruda(WPP)

Tendo Mokko

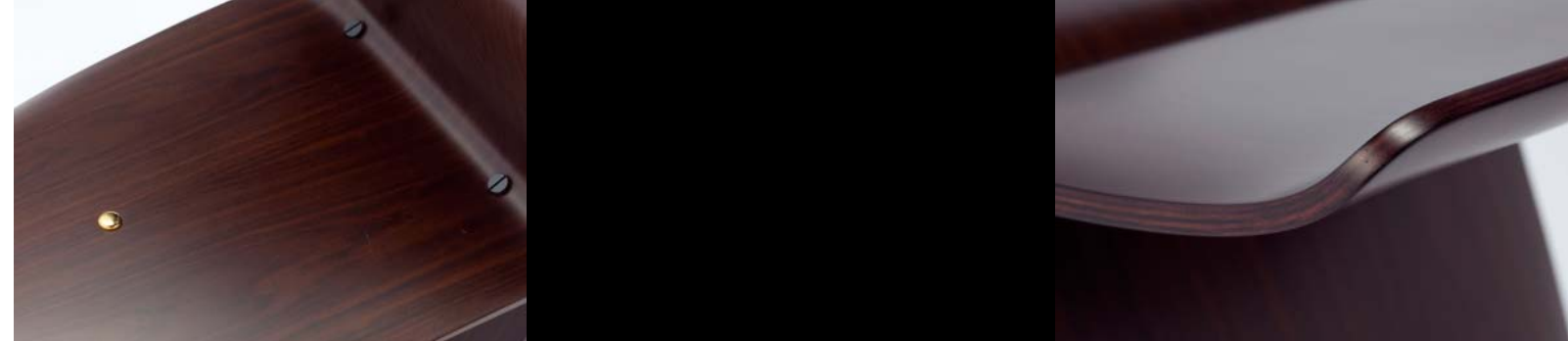
Text/Teruhiko Doi(WPP)



まるで蝶が舞っているようなスタイリング。
発売当初はその馴染みの無いスタイリングと
家具の適正価格を知らなかった日本の
マーケットにおいて、販売は苦戦したという。
だが、徐々にインテリアへの目が肥えてきた
人々によって、その価値が再評価されてきた。



Butterfly Stool®



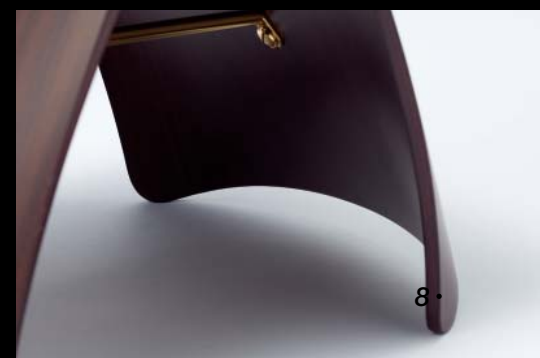
STYLING

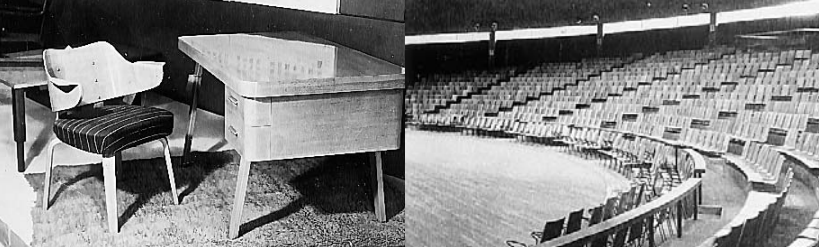
MONO



天童木工の製品に携わったデザイナーには
柳宗理のほかにも
柏戸椅子の剣持勇、モンローチェアの磯崎新、
そして安楽椅子やローコストチェアをデザインした
松村勝男などがある。いずれも日本や世界で
知られた名作椅子ゆい。しかしその礎となった
天童木工の技術を忘れてはならない。

ミッドセンチュリーの代表的なデザイナーであり、
名作椅子の誉れ高いイームスチェアを生み出した
チャールズ&レイのイームス夫妻は、
自由な曲線や曲面を低コストで量産できる成形合板を
米海軍からの依頼で実用的な合板製品の開発へと進めた。
そうして誕生したのがイームスチェアであり、
柳宗理も彼らの元を訪ねてその技術を学んだという。
軍需からスピニアウトした成形合板技術を日本でも
独自に開発・研究していた天童木工に依頼して
柳宗理が『バタフライスツール』を完成させたのは
1956年のこと。翌年、ミラノのトリエンナーレに
出品されたこの椅子は見事金賞を獲得して、
一躍、世界に知られる存在となった。
自身の想像力による造形を形にするために、
デザイナーが新しい素材へとチャレンジすることは
いまほど素材が豊かではなかった時代では、
ごく当たり前のように行われてきた。
素材を活かすための技術が必要であることは無論だが、
その素材の可能性に対する想像力が、
デザイナーにとって最も必要な資質であったはずだ。
そういう視点で見えていくと、このバタフライスツールの
凄さが改めて見えてくる。後世に語り継がれるように
世界の美術館がその椅子を展示するのには、
造形の素晴らしさだけでは語りきれない理由が
ちゃんと存在するのである。





同じ厚さであれば無垢材よりも強度が高いという成形合板。その強度は薄くなればなるほど際立ってくるものである。その製品的特長とローコストで大量生産ができる利点は良く知られており、スタジアムの椅子や、巨大なホールの椅子なども同社は古くから手がけてきた。一般家庭内だけではなく、公共施設でも“天童木工の仕事”は確認できるので成形合板の座席に出会ったら、確認してみるといい。



STYLING

MONO



天童木工はプライウッドを使った家具で知られ、その製品は多くの企業や官庁でも使用されている。また、トヨタ車やホンダ車の本木目パネルやステアリングなどにも同社製品のものがある。これは木材加工技術の高さという長所が室内家具だけではなく世界までカバーしているということであろう。



バタフライツールの肝ともいべき2枚の板材の接合部分。たった2本のネジと1本のバーで留められているだけだが、左右のシンメトリー感は完璧なほど美しく仕上がっている。荷重を分散するRの美しさと機能に脱帽。



圧着して成形された板材で作られたとは判っていても、その造形の美しさには感嘆する。細部にわたる微妙なカーブや仕上げの美しさはまさに息を呑むほどの完成度。これが50年以上も前から日本で作られていたのかと思うと、感慨深いものがある。



ほぼ真上から当てた光の分散具合を見たカメラマンが思わず唖ったほど完璧な造形で仕上げられている。木材の製品でこれほど表面の触感が伝わるような光の入り具合は珍しい。座り心地を想起させるデザインである。

名品はシンプルな構造から生まれ出るものである



分解してみるとバタフライツールの凄さがまた理解できる。形状は写真を見て判るように合板のシェル部分を2つ繋ぎ合わせただけ。2枚の加工された合板と4ヶ所を接合する金具、そして1本のバーがすべてのパーツである。このシンプルさでありながら、圧倒的な印象を与える造形を作り上げたからこそその名作椅子なのだ。パーツの少なさに、逆にモノ作りの高い力量を感じてしまう。Photo/Takenori Aoki (WPP)

MONO

バタフライツールを始めとした
天童木工の製品についてのお問い合わせは
☎0120-01-3121
<http://www.tendo-mokko.co.jp/>



写真左: 静岡県体育館ホールに設置された座席は成形合板の座席。
写真右: 天童木工の3次元プレス機。



分割されたクッションが身体をやさしく
包み込む名作ロッキングチェア。
ベースはブライウッド。
天童木工の開発部長であった菅沢光政
のデザイン。1966年度Gマーク受賞。
価格 7万7175円～



スタッキング可能なダイニングチェア。
成形合板と無垢材の組み合わせが美しい。
2000年度Gマーク受賞。
柳宗理デザイン。
価格 5万1450円。



1999年に発表されたシェル・チェア。
高度な成形合板技術と流麗なフォルムに注目。
脚部はステンレス製丸パイプを磨き仕上げ。
柳宗理デザイン。
価格 7万1190円～



成形合板技術の粋を尽くしたその名もオリヅル。
折り紙のような複雑な造形を実現
できたのは天童木工の技術だからこそ。
価格 10万2900円(カラー4色)



名品バタフライツール。
MoMAおよびルーブル美術館収蔵。
柳宗理デザイン。
価格 4万950円



ムライズツール。3つの同じ成形合板の
部材を組み合わせたスツール。
MoMA収蔵品。1966年度Gマーク受賞。
価格 6万7200円



藤森健次デザインの座椅子。
この形の座椅子の元祖ともいべき名品。
フィラデルフィアミュージアム収蔵品。
価格 1万6800円(ケヤキ板目)